

# 岡崎市下水道事業 100周年記念誌







## 岡崎市下水道事業100周年記念誌 市長あいさつ

岡崎市長 中根 康浩

岡崎市の健全な都市の発達や健康で快適な生活環境の確保、公共用水域の水質保全に資する下水道が、大正12年の事業着手から100年の節目を迎えました。

日本が近代国家へと歩み出した明治時代は、当時の岡崎町においても綿紡績(ガラ紡)などの様々な産業が興り、岡崎の産業革命時代として大いに発展を遂げました。その一方で、都市活動や生産活動の活発によって生活排水や産業排水が増大し、至るところに汚水が停滞したことで感染症が流行するなど、衛生状態が悪化した時期にありました。

明治43年には岡崎市制調査委員会を設置し、市制実現のための都市の青写真や緊急課題の検討に入ると、調査委員会は、町民の健康で安全な生活の実現に必要な上下水道布設の要望が強いことを把握しました。その後、先進都市への視察を経てまとめられた「新生岡崎市誕生のための緊急重点施策」には、最重要施策として「上下水道の布設」を掲げ、具体的な整備計画を添えて内務省に提出しました。

大正5年7月1日の岡崎市制を施行後の大正12年には、国の工事認可を得て待望の下水道布設を開始しました。その後は大恐慌による計画変更や、戦災による工事中断などの困難に遭遇しましたが、その都度、先人たちと市民が一丸となって乗り越えてまいりました。

現在、本市は、誰一人置き去りにしない、日本一の幸せを実感できる“まちづくり”を目指して、様々な施策を積極的に進めております。下水道事業におきましても、ライフラインとして市民生活や社会経済活動を地下から支える重要事業として、将来にわたって安定的かつ適切な機能及びサービス水準を確保するため、最適で効率的な管理や保全等を進めてまいります。

結びに、今日まで本市の下水道事業の普及発展にご尽力いただいた先人のためめぬ努力に心からの敬意を表すとともに、新たな100年へ向けて、市民の皆さまのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 岡崎市下水道事業100周年記念誌 上下水道事業管理者あいさつ

岡崎市水道事業及び下水道事業管理者 伊藤 茂

岡崎市の下水道事業は、令和5年に着工から100周年を迎えました。この節目は、先人たちの功績への感謝、そして未来に向けた展望を共有する重要な機会と考えています。

下水道事業の歴史は、都市の成長と発展に伴い、生活排水や産業排水が増加し、汚れた環境を清浄に戻すことで、私たちの生活の質や環境を向上させる大きな使命を背負って始まりました。

岡崎市は、全国で15番目という早い事業着手であったことから、先人たちが道なき道を歩み、不断の努力により、この使命に取り組んできたことが分かります。その成果により、衛生的で健康的な生活を送ることができ、河川においても清らかな流れを取り戻しました。

しかし、今日、我が国は人口減少時代に突入し、事業収益性の低下に加え、技術者や

作業員等の人材確保が難しくなるなど、新たな社会的課題に直面しています。

現代を生きる私たちは、先人の残した貴重な下水道資産を健全な形で次世代に引き継ぐ責務があります。この節目を機に、未来に向けた持続可能な下水道システムを築くため、新たなアプローチと戦略の検討が必要となっています。

新たな時代に向かう今こそ、改めて先人たちの知識や経験、技術を学び、歴史的経緯も踏まえた現状整理や課題等をしっかりと確認した上で、将来にわたって下水道事業を最適かつ安定的に継続するという命題に果敢に挑戦してまいります。

その一助となることを願い、この「岡崎市下水道事業100周年記念誌」を編集いたしました。

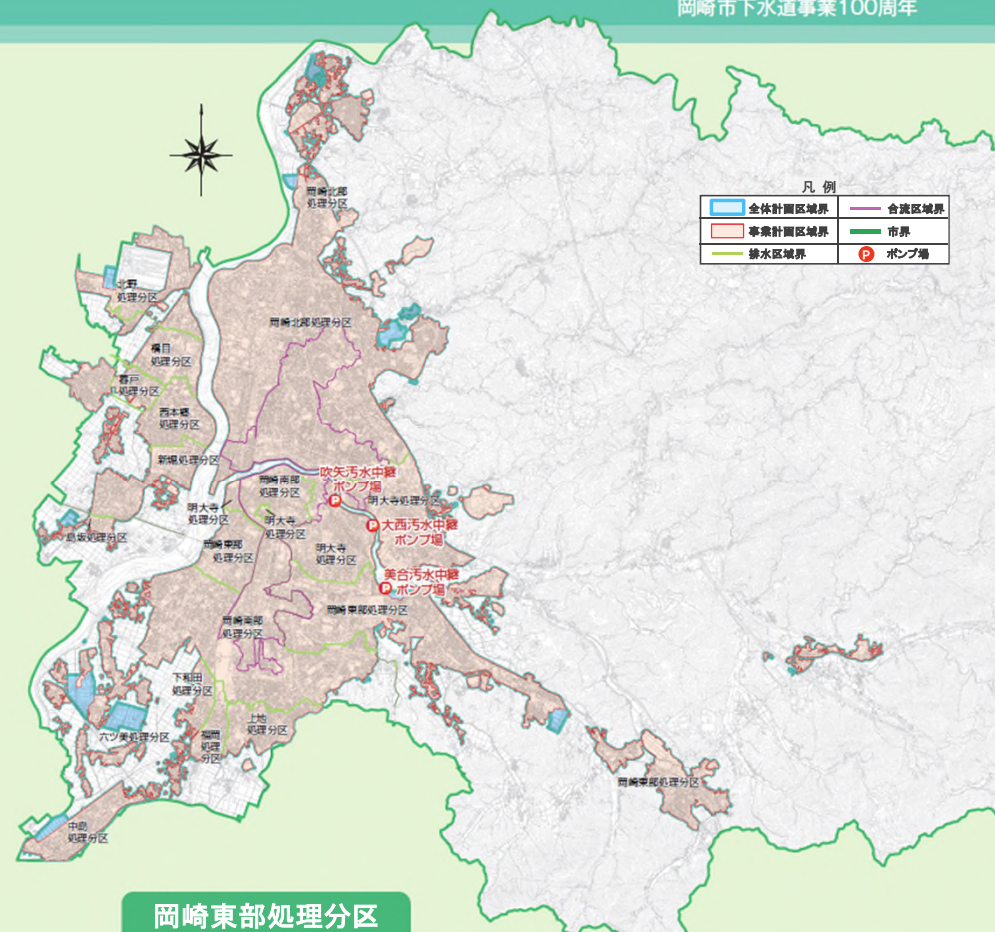
## 【汚水ポンプ施設】

## 明大寺处理分区

吹矢污水中継ポンプ場



大西汚水中継ポンプ場



岡崎東部処理分区

美合汚水中継ポンプ場



## 【雨水ポンプ施設】

### 占部川排水区

針崎雨水ポンプ場



六名雨水ポンプ場



### 砂川排水区

砂川雨水ポンプ場



福岡雨水ポンプ場



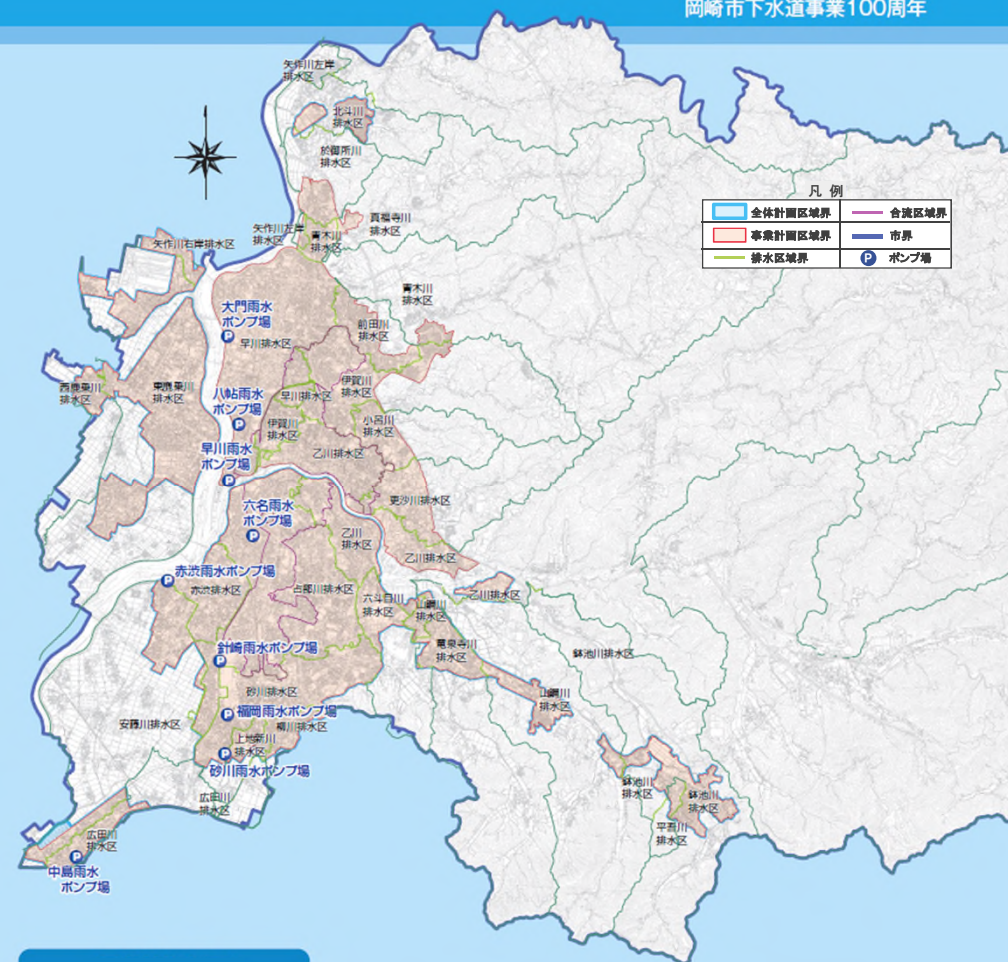
### 赤渋排水区

赤渋雨水ポンプ場



### 広田川排水区

中島雨水ポンプ場



### 早川排水区

早川雨水ポンプ場



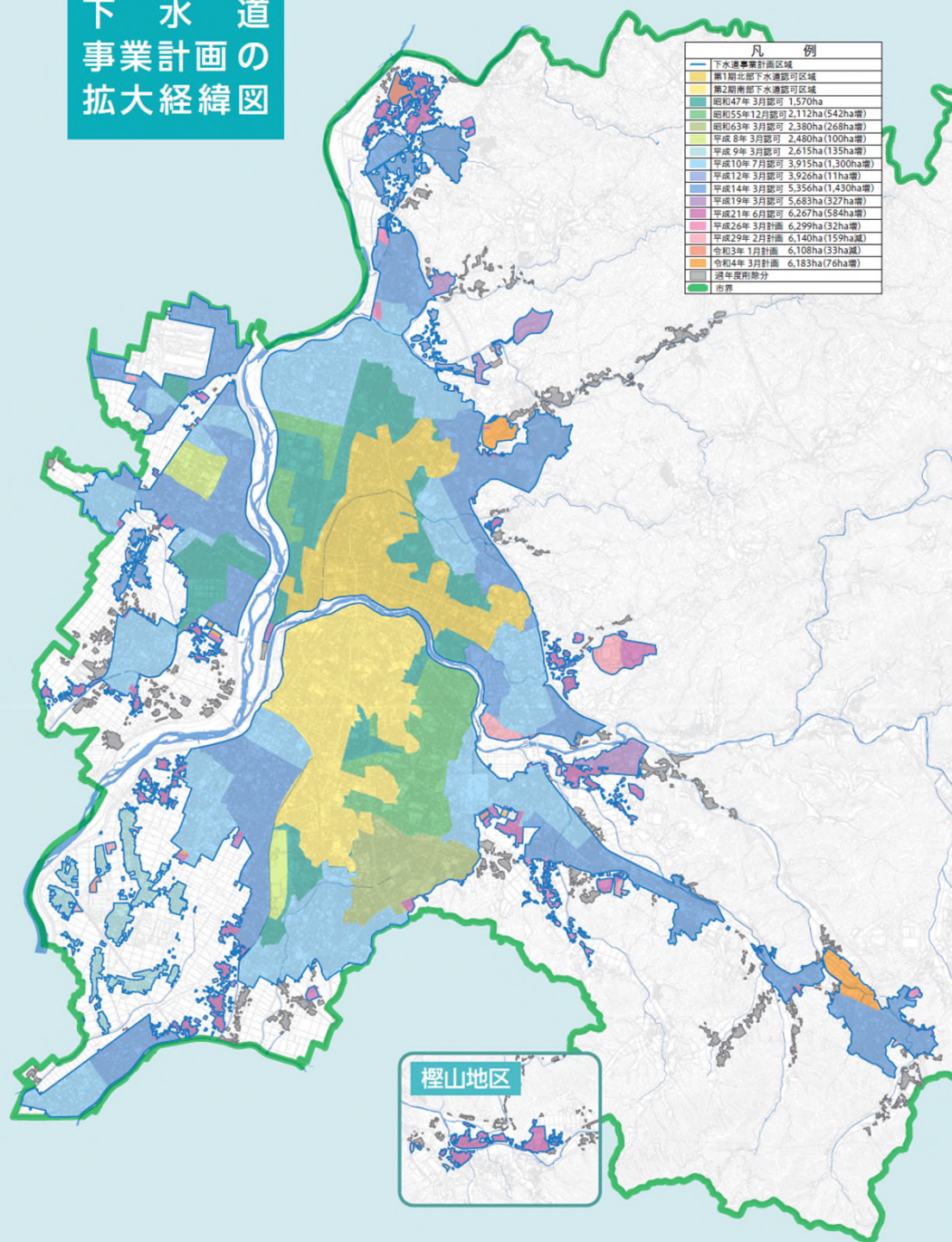
大門雨水ポンプ場



八帖雨水ポンプ場

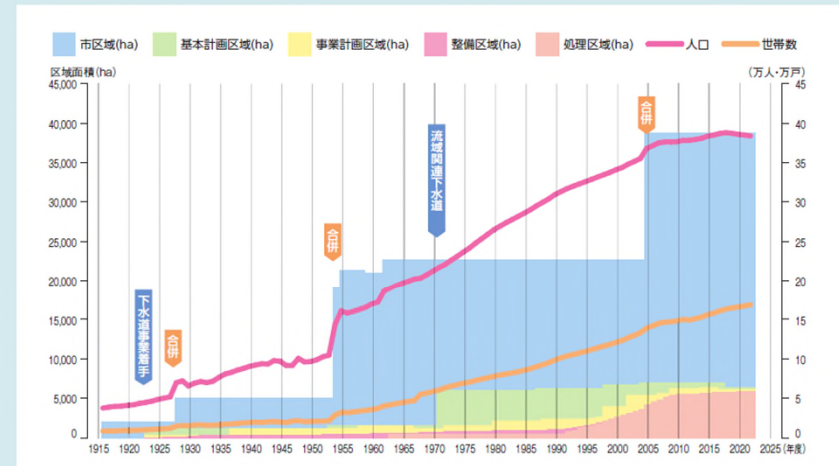


## 下水道事業計画の拡大経緯図



## 市勢の変遷と下水道事業の拡大

この100年間に本市の市勢は飛躍的に拡大し、市域・市街地・世帯数は約20倍、人口は約10倍となった。本市下水道事業に携わった先人は、知見・経験もなかった未開の新事業への挑戦を続けるとともに、このように大きく激しい変化に見事に対応し、本市下水道事業を築いてきた。



## 下水道普及率の推移と関連事業

極めて早く下水道事業に着手した本市だが、普及拡大は遅く平成5(1993)年以降のおおむね15年間に偏っている。前半の約50年間は戦争の影響を大きく受け、事業は停滞した。後半約50年間の始めに流域下水道への乗換えを決断し大転換を果たした。しかし、流域下水道の遅れの影響を大きく受け、本格的な整備拡大は処理場の供用開始待ちとなったが、その後大きく挽回し現在に至る。

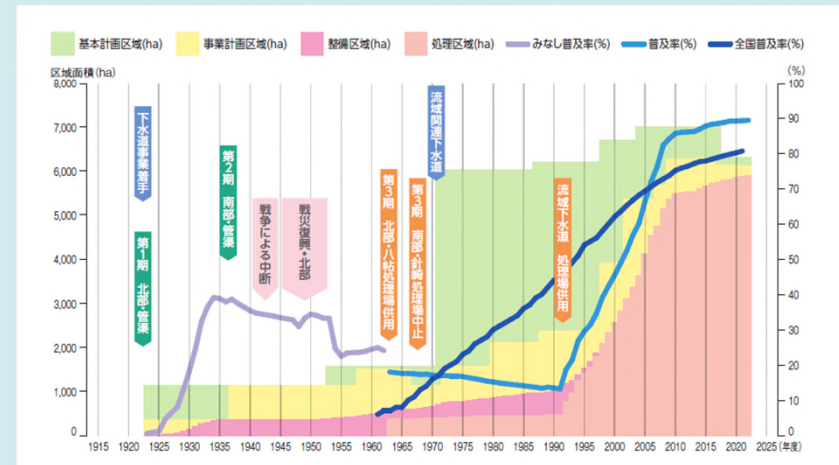




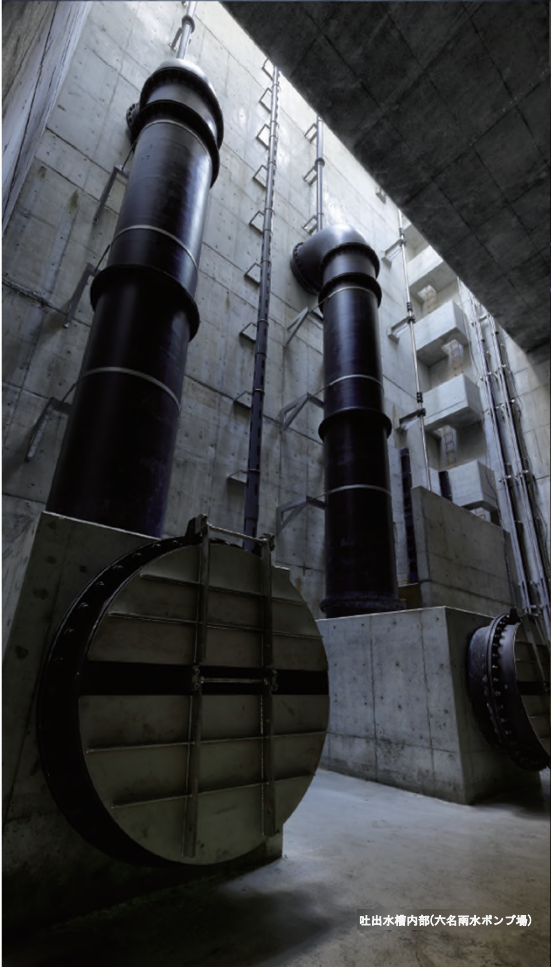


photo : RayShirao

螺旋階段式高落差人孔(柱町幹線)



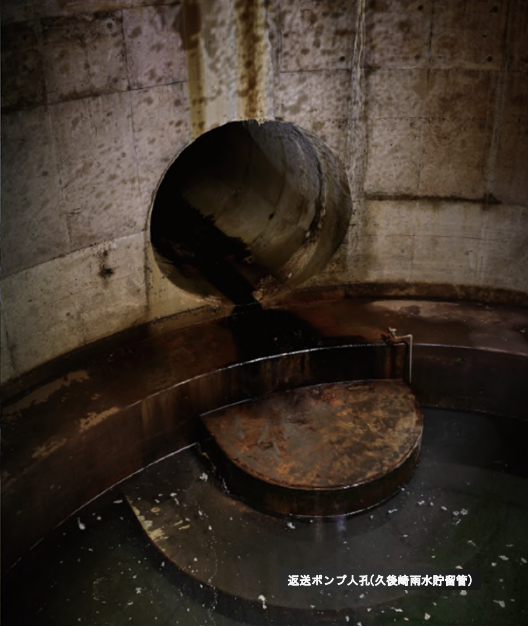
取柄右岸側吐口(乙川遠集管雨水吐口/乙川7)



吐出水槽内部(六名雨水ポンプ場)



返送ポンプ人孔(久保崎雨水貯留管)



返送ポンプ人孔(久保崎雨水貯留管)